

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19710221

研究課題名 (和文) 現代における危機の表象と怪物生成のメカニズムについての研究

研究課題名 (英文) Research on Representation of Crisis in Contemporary Society and the Mechanism of Monster Creation

研究代表者

生駒 夏美 (IKOMA NATSUMI)

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：60365525

研究代表者の専門分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：思想、学際的研究、境界、怪物、他者

1. 研究計画の概要

現代社会において、特にセンセーショナルに注目を集めた犯罪やテロに関する語りをマスコミ報道や文学作品などから収集し、その語りの分析を通して、何が他者化され怪物として表象されるのか考察する。そこから現代社会が特徴的に抱える恐怖の構造を照射する。

既存の文学領域を超え、社会における「語り」と総合的に捉え、ジェンダーの視点を大いに用いて分析するもので、対象として日本社会、欧米社会を比較的に扱うが、それはインターネット時代の到来を迎え、もはや国境という概念が無意味化する中での「脅威」を明らかにするためである。

明瞭なイデオロギーが欠如し、複雑で混沌とした現代社会の分析として、これまでの領域分断的研究手法では到達不可能であったあらたな知の領域を目指す。

2. 研究の進捗状況

- 1) 日本におけるオウム真理教事件の分析を行った。事件を扱ったマスコミ報道、文学作品を集め、そこで信者や教祖をどのように造形して表象しているかを分析した。その結果、この事件が劇画的にとらえられ、さらに教祖をおとしめる囁きが語りに導入されることによっ

て、事件のインパクトを薄め、オウム真理教事件を深刻な問題としてとらえることが拒否されている傾向が明るみに出た。それはオウム事件が内包する現代特有の問題、つまり家族崩壊や身体コントロールといったものが我々の精神にとっての大問題でもあることを逆に知らせるものでもあった。まとめた論文は Asian Cultural Studies, Vol. 35 (March 2009) にて発表した。村上春樹が『1Q84』でオウムを扱っていることから、さらに今後加筆していく。

- 2) 和歌山カレー事件、奈良児童連続殺害事件、神戸児童連続殺害事件、秋田児童殺害事件などの語りを収集・分析し、9・11 との比較も導入しながら、映像とパフォーマンスが果たした役割についての研究分析を行った。それぞれの語りを収集し、これらが特にテレビ報道として人々に伝えられ、それが人々の注目を引き起こした事実に注目し、「劇場化社会」というキーワードを導入して考察した。被疑者への憎悪とも言える感情が社会に広がっていく原因の一端として、メディアが果たす役割の大きさを指摘し、ジェンダーの視点の重要性を論じた論文を、Japan Studies: The Frontier 日本研究のフロンティア (March 2010) にて発表した。この論文には、今後、米国のジョンベネ・ラムジー事件の考察も加えていく予定。

- 3) 2) からの発展で、最初の「劇場型

犯罪」といえるゾディアック事件の資料収集を行った。社会がインターネット化する前の時代の犯罪であるため、現代社会との比較が興味深いところである。これは2010年度に実行する予定。

- 4) ネット時代における現代社会の特殊性と現代文学の未来を関連付けて考察し、2010年度5月に口頭発表する予定である。

3. 現在までの達成度

③ やや遅れている。

(理由)

主に9・11関連の資料が膨大な量におよび、そこから適切なものを選択する作業に時間がかかっていることと、派生的に研究領域が広がっていることが理由である。

4. 今後の研究の推進方策

- 1) これまでに集めたゾディアック事件の語りの分析を行なう。インターネット化する前の時代の「劇場型犯罪」と、現代社会との比較を行なう。
- 2) 9・11についての本格的分析を行なう。比較のため、イギリスで起きたロンドン同時多発テロを巡る小説の分析も並列的に行なう。
- 3) 本研究期間中にできることを限定し、それ以外は今後継続して研究していくものとする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 生駒夏美、「劇場型社会の犯罪物語とジェンダー —和歌山カレー事件を中心に—」、*Japan Studies: The Frontier 日本研究のフロンティア*、7-22、2010年、査読無。
- ② 生駒夏美、「悪者づくり—オウム真理教事件を巡る言説について」、*Asian Cultural Studies*、Vol. 35、241-264、2009年、査読有。

[学会発表] (計1件)

- ① 生駒夏美、“On Modern Witches: Crime Narrative and Monstrosity” (現代の魔女：犯罪ナラティブと怪物性)、ハーバード・イェンチン研究所トークシリーズ、2009年12月4日、ハーバード大学(米国)